

平成28年の救急出動件数等（速報値）

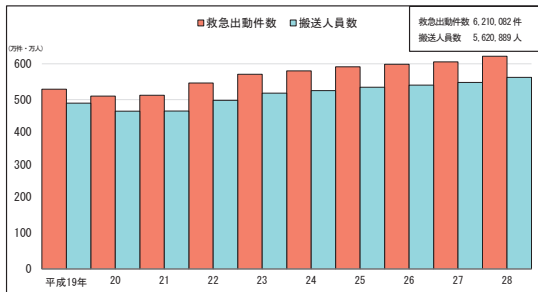
救急企画室

※ 速報値としての公表であり、精査の結果、変更する可能性がある。
 ※ 平成27年以前の数値は確定値となる。
 ※ 平成28年とは、平成28年1月1日から平成28年12月31日までを指す（平成28年12月31日中に覚知した事案を含む）。

1 救急出動件数、搬送人員数ともに過去最多

平成28年の救急自動車による救急出動件数は621万82件（対前年比15万5,267件増、2.6%増）、搬送人員数は562万889人（対前年比14万2,519人増、2.6%増）で救急出動件数、搬送人員数ともに過去最多となった（図1参照）。

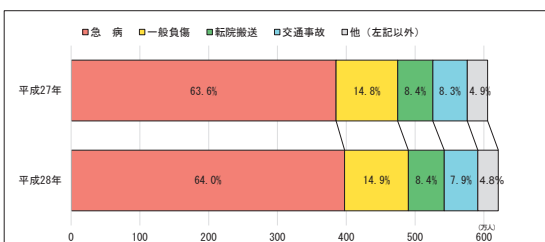
図1 救急自動車による救急出動件数と搬送人員の推移



2 救急出動件数の64.0%が急病者

平成28年の救急自動車による救急出動件数の内訳を搬送の原因となった事故の種別ごとにみると、急病が397万5,521件（64.0%）、一般負傷が92万6,137件（14.9%）、転院搬送が52万1,571件（8.4%）、交通事故が48万8,776件（7.9%）などとなっている（図2参照）。

図2 事故種別の救急出動件数と構成比

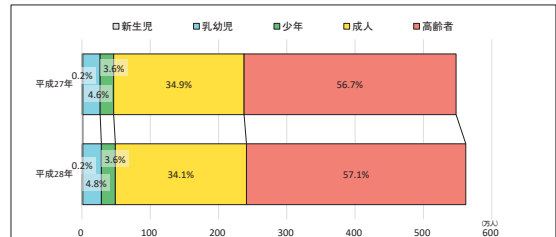


※端数処理（四捨五入）のため、割合の合計が100%にならない場合がある。

3 搬送人員数の57.1%が高齢者

平成28年の救急自動車による搬送人員数の内訳を年齢区分別にみると、高齢者が321万1,591人（57.1%）、成人が191万9,288人（34.1%）、乳幼児が27万1,541人（4.8%）などとなっている（図3参照）。

図3 年齢区分別の搬送人員数と構成比



※端数処理（四捨五入）のため、割合の合計が100%にならない場合がある。

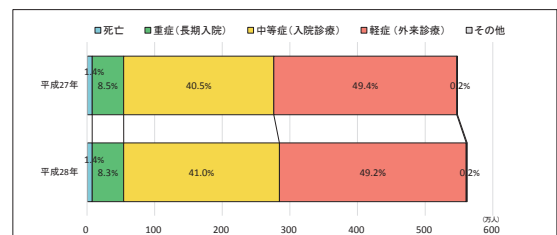
（注）年齢区分の定義

新生児：生後28日未満の者
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上満18歳未満の者
 成人：満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上の者

4 搬送人員数の49.2%が結果として入院を必要としない軽症（外来診療）者

平成28年の救急自動車による搬送人員数の内訳を傷病程度別にみると、軽症（外来診療）が276万3,359人（49.2%）、中等症（入院診療）が230万2,141人（41.0%）、重症（長期入院）が46万6,240人（8.3%）などとなっている（図4参照）。

図4 傷病程度別の搬送人員数と構成比



※端数処理（四捨五入）のため、割合の合計が100%にならない場合がある。

死亡：初診時において死亡が確認されたもの
 重症（長期入院）：傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
 中等症（入院診療）：傷病程度が重症または軽症以外のもの
 軽症（外来診療）：傷病程度が入院加療を必要としないもの
 その他：医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、もしくはその他の場所に搬送したもの

※傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

問い合わせ先

消防庁救急企画室
 TEL: 03-5253-7529